

授業科目	運動学実習			担当者	打田 明・長谷川 昌士	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	(オムニバス)
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	基本動作の動作分析を行い、レポート提出、報告会を行う。生体力学の基礎を学習する。運動学的分析の手法である床反力、体重心、関節モーメントについて理解を深める。その応用として立ち上がりや歩行における運動学的分析について理解を深める。					
到達目標	1. 基本動作・歩行の動作分析を行い、再現性のある表記ができるようになる。 2. 運動学的分析手法を理解する。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 動作分析①立ち上がり グループワーク						
第3回 動作分析①立ち上がり グループワーク						
第4回 動作分析①立ち上がり グループワーク						
第5回 動作分析①立ち上がり グループワーク						
第6回 報告会・レポート提出						
第7回 動作分析②起居動作 グループワーク						
第8回 動作分析②起居動作 グループワーク						
第9回 動作分析②起居動作 グループワーク						
第10回 動作分析②起居動作 グループワーク						
第11回 報告会・レポート提出						
第12回 動作分析③歩行 グループワーク						
第13回 動作分析③歩行 グループワーク						
第14回 動作分析③歩行 グループワーク						
第15回 動作分析③歩行 グループワーク						
第16回 報告会・レポート提出						
第17回 まとめ						
第18回 運動学的分析手法に必要な床反力、体重心について学習する。						
第19回 運動学的分析手法に必要な関節モーメントについて学習する。						
第20回 運動学的分析(立ち上がり動作)について学習する。						
第21回 運動学的分析(歩行)の重心移動、床反力、筋活動について学習する。						
第22回 運動学的分析(トイレ動作)についてグループにて学習する。						
第23回 作業活動(日常活動)についてグループにて学習する。						
評価方法						
提出課題と小テスト						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
解剖学、運動学の基礎知識を復習しておく。						

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス

akira.uchita@ocr.ac.jp

教科書

書名	動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践
著者名	石井 慎一郎
出版社	MEDICAL VIEW

参考図書

書名	運動 からだ図解 動作分析の基本
著者名	石井 慎一郎
出版社	マイナビ

留意事項

本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業)実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。

また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	栄養学			担当者	仲村 祐江	
学科名	作業療法学科	学年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内容	医療に従事する者として必要不可欠な栄養学の基礎を学ぶ。炭水化物・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルと食物繊維について各栄養素ごとに概説。さらに3大栄養の消化器官での消化と吸収を理解し、各栄養素の過不足と疾病の関係について学習する。					
到達目標	①炭水化物、タンパク質、脂質の消化・吸収のメカニズムを理解し、各栄養素を説明できる。 ②ビタミン、ミネラルの生理機能と欠乏症について説明できる。					
授業計画						
第1回 栄養についての概念						
第2回 炭水化物の栄養について						
第3回 炭水化物の消化・吸収・代謝について						
第4回 タンパク質の栄養について						
第5回 タンパク質の消化・吸収・代謝について						
第6回 脂質の栄養について						
第7回 脂質の消化・吸収・代謝について						
第8回 ビタミン・ミネラルについての栄養について/ライフステージごとの栄養について						
評価方法						
筆記試験：70% 小テスト20% 提出物：10%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
基本的に「栄養学」は資料を提供して授業を行います。 授業前の準備として配布資料をしっかりと確認しておくように。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名 リハベ－シク 生化学・栄養学 第2版						
著者名 内山靖・藤井浩美・立石雅子 著						
出版社 医歯薬出版株式会社						
留意事項						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	基礎作業学 治療論			担当者	松下 健史 他	(オムニバス)
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	3単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	作業については、木工・絵画・陶芸などの実践を交えながら各作業の作業工程を考え、治療的意義を学ぶ。作業分析の方法・考え方を作業を通して学ぶ。					
到達目標	作業の実践から、作業分析を行い障がいを持つ人への作業の適応を考えることができる。木工・陶芸・絵画など作業の楽しさを知り、人に指導することができる。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 子供のおもちゃ作り①						
第3回 子供のおもちゃ作り②						
第4回 子供のおもちゃ作り③						
第5回 子供のおもちゃ作り④						
第6回 子供のおもちゃ作り⑤						
第7回 子供のおもちゃ作り⑥						
第8回 おもちゃ作りまとめ						
第9回 陶芸①						
第10回 陶芸②						
第11回 陶芸③						
第12回 陶芸④						
第13回 陶芸⑤						
第14回 絵画①風景画の基本:空						
第15回 絵画②人工物として、ビンやカップ						
第16回 絵画③野菜						
第17回 絵画④果物						
第18回 絵画⑤絵本を使ったグループワーク						
第19回 絵画⑥石こう粘土で、そっくりの野菜作り						
第20回 木工① 木工の作業療法としての治療的意義						
第21回 木工② 工程分析説明						
第22回 木工③ 工程分析						
第23回 木工④ 工程分析						
評価方法						
レポート100% 無断での遅刻・欠席は減点します。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
講義内でお伝えします。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						

教科書	
書名	
著者名	
出版社	
参考図書	
書名	キミコ式スケッチ入門
著者名	松本キミ子 著
出版社	JTBパブリッシング
書名	大人の塗り絵、やすらぎの風景編
著者名	青木美和 著
出版社	河出書房新社
書名	作業活動実習マニュアル
著者名	古川 宏
出版社	医歯薬出版
留意事項	
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。	

授業科目	作業療法治療学 各論			担当者	島田 康雄 他	(オムニバス)
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	3単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	認知機能(高次脳機能)を含めた身体障害領域の作業療法について学ぶ。座学だけでなく検査・測定の実技についても学習する。					
到達目標	様々な認知機能の障害を理解する。各種検査方法を習得する。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション/前頭側頭型認知症の作業療法						
第2回 アルツハイマー型認知症の作業療法						
第3回 レビー小体型認知症、パーキンソン病の作業療法						
第4回 Pusher現象の作業療法						
第5回 右半球損傷患者の高次脳機能障害						
第6回 左半球損傷患者の高次脳機能障害						
第7回 がんのリハビリテーション						
第8回 喀痰・吸引について						
第9回 関節可動域制限に対する運動療法						
第10回 筋力低下に対する運動療法						
第11回 整形外科疾患 上肢骨折と下肢骨折						
第12回 脊髄損傷の作業療法						
第13回 検査・測定の実践:深部腱反射、病的反射検査の演習						
第14回 検査・測定の実践:感覚検査、脳神経検査協調性検査						
第15回 検査・測定の実践:感覚検査						
第16回 検査・測定の実践:ROM①						
第17回 検査・測定の実践:ROM②						
第18回 検査:測定の実践:MMT①						
第19回 検査・測定の実践:MMT②						
第20回 検査:測定の実践:片麻痺機能検査						
第21回 認知神経リハビリテーションの概要						
第22回 認知神経リハビリテーションの実技						
第23回 慢性疼痛 まとめ						
評価方法						
定期試験80% レポート20% 連絡のない遅刻・欠席は減点します。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
時間選択制の授業があるためスケジュールをしっかりと確認してください。学習量が非常に多いと思われます。復習は必ずしてください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						

教科書	
書名	標準作業療法学高次脳機能作業療法学
著者名	能登真一
出版社	医学書院
書名	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版
著者名	編集 山口昇 玉垣努
出版社	医学書院
参考図書	
書名	運動療法学 障害別アプローチの理論と実践
著者名	編集市橋則明
出版社	文光堂
留意事項	
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。	

授業科目	作業療法治療学身体障害系 I			担当者	山根一恭・松比良 剛	□実務教員
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	(オムニバス)
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	身体障害領域の疾患に対する基礎的な知識の拡充を図ると共に、現場で実際に行っている作業療法について具体的なイメージに繋がることを目標に講義を致します。					
到 達 目 標	疾患基礎知識の獲得し、作業療法を行う上での視点を持つことができるようになる。					
実務教員 による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 山根 一恭:新協和病院 リハビリテーション科 技師長 松比良 剛:伊丹せいふう病院 リハビリテーション部 科長					
授業計画						
第1回 急性期～維持期における作業療法						
第2回 回復期の作業療法						
第3回 廃用症候群と作業療法						
第4回 脳画像の診方・考え方						
第5回 リハ栄養と作業療法						
第6回 認知症とせん妄と作業療法						
第7回 パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋ジストロフィーの作業療法						
第8回 自動車運転と作業療法						
第9回 関節疾患と作業療法 一拘縮へのアプローチ						
第10回 肩関節疾患と作業療法						
第11回 肘関節・手関節疾患と作業療法						
第12回 家屋評価と作業療法						
第13回 脊髄損傷、頸椎疾患と作業療法						
第14回 車いすシーティングと作業療法						
第15回 義手・切断・リウマチと作業療法						
評価方法						
筆記試験100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
受講後、配布した資料と共に講義でお話した内容についてしっかりと復習をして下さい						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス yamanekazutaka@gmail.com						

教科書
書名
著者名
出版社
参考図書
書名
著者名
出版社
留意事項
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	作業療法治療学身体障害系Ⅱ			担当者	荒木 雅子	□実務教員
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	疾患の特性や基礎知識、作業療法の介入についてを講義と実技を通して学ぶ。					
到 達 目 標	疾患の特性を理解し、症状に応じた作業療法の評価、目標設定、治療の選択ができるようになる。					
実務教員 による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 作業療法士 牧病院 勤務					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 摂食嚥下障害						
第3回 神経筋疾患						
第4回 神経変性疾患						
第5回 内部疾患 心疾患①						
第6回 内部疾患 心疾患②						
第7回 内部疾患 呼吸器疾患①						
第8回 内部疾患 呼吸器疾患②						
第9回 内部疾患 糖尿病						
第10回 褥瘡・ポジショニング						
第11回 リハビリ栄養						
第12回 悪性腫瘍						
第13回 脳血管障害①(回復期)						
第14回 脳血管障害②(維持期)						
第15回 まとめ						
評価方法						
筆記試験80%						
小テスト10%						
受講態度10%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
授業後に教科書、資料を見直し復習すること						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。 授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス				kyomu@ocr.ac.jp		

教科書	
書名	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学
著者名	編集 山口昇
出版社	医学書院
参考図書	
書名	
著者名	
出版社	
留意事項	
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。	

授業科目	作業療法治療学精神障害系Ⅰ			担当者	松下 健史 他	☐ 実務教員
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	教科書及び文献を用いた講義と演習。					
到達目標	精神障害者に対する作業療法評価・治療に必要な基本的知識と技術の習得。					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義を行う。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 精神医療の歴史						
第3回 精神科リハビリテーション						
第4回 統合失調症の作業療法①						
第5回 統合失調症の作業療法②						
第6回 気分障害の作業療法①						
第7回 気分障害の作業療法②						
第8回 神経症性障害での作業療法						
第9回 発達障害の作業療法						
第10回 精神科領域での集団作業療法①						
第11回 精神科領域での集団作業療法②						
第12回 児童精神科病棟での作業療法						
第13回 ゲストスピーカー						
第14回 事例検討						
第15回 まとめ						
評価方法						
筆記試験(100%)						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
資料は教科書より抜粋した内容をパワーポイントで配布します。各自整理するようにしてください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
	書名	精神障害(作業療法学全書 改訂第3版)				
	著者名	富岡昭子、小林正義				
	出版社	協働医書出版社				
参考図書						
	書名	精神科作業療法の理論と技術				
	著者名	早坂友成				
	出版社	株式会社メジカルビュー社				
留意事項						
本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業)実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	作業療法治療学精神障害系Ⅱ			担当者	松下 健史 他	□実務教員
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	教科書及び文献を用いた講義と演習。					
到達目標	精神障害者に対する作業療法評価・治療に必要な基本的知識と技術の習得。					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義を行う。					
授業計画						
第1回 精神科病院での作業療法						
第2回 精神科訪問看護での作業療法						
第3回 医療観察法での作業療法①						
第4回 医療観察法での作業療法②						
第5回 てんかんの作業療法						
第6回 依存症の作業療法						
第7回 就労移行支援事業所での作業療法						
第8回 司法領域での作業療法						
第9回 精神科領域での多職種連携						
第10回 制度外での作業療法						
第11回 SST						
第12回 精神科領域での評価						
第13回 パーソナリティ障害の作業療法						
第14回 認知症の作業療法						
第15回 まとめ						
評価方法						
筆記試験(100%)						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
資料は教科書より抜粋した内容をパワーポイントで配布します。各自整理するようにしてください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
書名		精神障害(作業療法学全書 改訂第3版)				
著者名		富岡昭子、小林正義				
出版社		協働医書出版社				
参考図書						
書名		精神科作業療法の理論と技術				
著者名		早坂友成				
出版社		株式会社メジカルビュー社				
留意事項						
本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業)実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	作業療法治療学発達障害系Ⅰ			担当者	田中 裕二	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	発達障害について学修し作業療法士に必要な基本的なスキルを習得する。					
到達目標	発達障害の基礎知識を習得し、臨床推論ならびに支援方法を実践できる。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション、小児の運動発達						
第2回 中枢神経の仕組み						
第3回 運動麻痺とは						
第4回 運動麻痺に対する治療理論						
第5回 脳性麻痺の病態と類型						
第6回 痙直型脳性麻痺と作業療法基礎編						
第7回 痙直型脳性麻痺と作業療法応用編						
第8回 アテトーゼ型脳性麻痺と作業療法基礎編						
第9回 アテトーゼ型脳性麻痺と作業療法応用編						
第10回 ペーパーペイシエント①, レポート課題の提示						
第11回 ペーパーペイシエント②						
第12回 ペーパーペイシエント③						
第13回 グループ発表						
第14回 進行性筋ジストロフィーと作業療法の基礎編						
第15回 重症心身障害と作業療法の基礎編						
評価方法						
筆記試験70% レポート課題20% 発表10%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
適宜講義内でお伝えします。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス				kyomu@ocr.ac.jp		
教科書						
書名		作業療法学ゴールド・マスター・テキスト発達障害作業療法学				
著者名		監修:長崎重信 編集:神作一実				
出版社		メジカルビュー社				
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
実技を行う場合があります。動きやすい格好でお願いします。						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	作業療法治療学発達障害系Ⅱ			担当者	田中 裕二・小丸 美里	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	(オムニバス)
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	発達障害について学修し作業療法士に必要な基本的なスキルを習得する。					
到 達 目 標	発達障害の基礎知識を習得し、臨床推論ならびに支援方法を実践できる。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション, 小児期の発達						
第2回 未就学児の作業療法						
第3回 就学児の作業療法						
第4回 感覚統合理論の基礎編(小丸)						
第5回 感覚統合理論の応用編(小丸)						
第6回 発達性協調性運動症と作業療法の基礎編						
第7回 自閉スペクトラム症と作業療法の基礎編						
第8回 自閉スペクトラム症と作業療法の応用編						
第9回 注意欠如多動症と作業療法の基礎編						
第10回 注意欠如多動症と作業療法の応用編						
第11回 限局性学習症と作業療法の基礎編						
第12回 限局性学習症と作業療法の応用編						
第13回 ペーパーペイシエント, レポート課題提示						
第14回 ペーパーペイシエント, レポート課題提示						
第15回 グループ発表						
評価方法						
筆記試験70% レポート課題20% 発表課題:10%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
適宜講義内でお伝えします。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。 授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス			kyomu@ocr.ac.jp			
教科書						
書名		作業療法学ゴールド・マスター・テキスト発達障害作業療法学				
著者名		監修:長崎重信 編集:神作一実				
出版社		メジカルビュー社				
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						

授業科目	作業療法治療学発達障害系Ⅱ			担当者	田中 裕二・小丸 美里	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	(オムニバス)
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	発達障害について学修し作業療法士に必要な基本的なスキルを習得する。					
到 達 目 標	発達障害の基礎知識を習得し、臨床推論ならびに支援方法を実践できる。					
留意事項 実技を行う場合があります。動きやすい格好でお願いします。 本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	作業療法治療学老年期障害系 I			担当者	出口 翔太	□実務教員
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	高齢者の加齢による心身機能や老年期障害に対する評価・治療に関する基礎知識を学ぶ					
到 達 目 標	老年期障害の生活・障害構造・社会資源を理解しそれらに対するアプローチの概要やマネジメントを考えられるようになる。					
実務教員 による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 急性期・回復期病院での経験を経て、訪問看護ステーションに入職し、現在は管理職として従事している。また市の介護予防事業に参画し、生活期に10年以上関与している。その他にも、他の教育機関で非常勤講師やセミナーでの講師を務めている。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 高齢者の特徴を知る 1						
第3回 高齢者の特徴を知る 2						
第4回 高齢者体験実習						
第5回 高齢者の生きてきた時代背景・社会の推移について 1						
第6回 高齢者の生きてきた時代背景・社会の推移について 2						
第7回 介護保険について						
第8回 地域包括ケアについて						
第9回 在宅医療の実践について						
第10回 老年期疾患別作業療法 1						
第11回 老年期疾患別作業療法 2						
第12回 老年期作業療法の実践 1						
第13回 老年期作業療法の実践 2						
第14回 起居移乗介助について						
第15回 まとめ						
評価方法						
筆記試験70% 課題提出30%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
授業で習った教科書範囲および参考資料は、授業後必ず読み直し理解すること。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス				shota.i.0211@gmail.com		

教科書	
書名	作業療法学全書第7巻 老年期
著者名	村田 和香 編集
出版社	協同医書出版社
参考図書	
書名	老人のリハビリテーション 第9版
著者名	福井圀彦 原著
出版社	医学書院
留意事項	
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。	

授業科目	作業療法治療学老年期障害系Ⅱ			担当者	上杉 瑞穂	□実務教員
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	在宅生活支援について 介護保険制度とその中での作業療法士の役割 環境因子に対するアプローチの理解を深める					
到 達 目 標	在宅生活における老年期作業療法の役割と、評価からアプローチまでの流れをとらえられるようにする					
実務教員 による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 作業療法士 千里丘協立診療所 勤務					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 地域包括ケアでの作業療法士の役割						
第3回 訪問リハでの作業療法について						
第4回 通所サービスでの作業療法士の役割						
第5回 認知症について①						
第6回 認知症について②						
第7回 廃用性症候群について、低栄養について						
第8回 摂食、嚥下について						
第9回 ポジショニングについて						
第10回 福祉用具貸与、購入について						
第11回 福祉用具(ベッド、車いす)						
第12回 福祉用具(トイレ、入浴)						
第13回 福祉用具(歩行器、杖、自助具)						
第14回 住宅改修について						
第15回 終末期ケアについて						
評価方法						
筆記試験 80% レポートなど提出物 20% その他の課題や、授業態度、遅刻、欠席、早退などにより、加点、減点します。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
授業ごとにお伝えします。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						

教科書
書名
著者名
出版社
参考図書
書名
著者名
出版社
留意事項
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	作業療法実習Ⅲ			担当者	島田 康雄 他	(オムニバス)
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	障害をお持ちの方を評価させていただきその内容を記録にまとめる。臨床実習で求められる態度、知識、技術を習得する。					
到達目標	障害をお持ちの方を評価させていただきその内容を記録にまとめる。臨床実習で求められる態度、知識、技術を習得する。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 ご協力者の情報の読み込みと、評価計画の立案						
第3回 評価計画書の提出						
第4回 評価計画書のフィードバック						
第5回 検査測定の実習						
第6回 検査測定の実習						
第7回 ご協力者様の評価実施						
第8回 グループ内の情報共有作業						
第9回 レポート作成作業						
第10回 レポート作成作業						
第11回 レポート作成作業						
第12回 レポート作成作業						
第13回 レポート作成作業						
第14回 レポート作成作業						
第15回 レポートのフィードバック(修正後の再フィードバック 合格するまで繰り返し)						
第16回 レポートのフィードバック(修正後の再フィードバック 合格するまで繰り返し)						
第17回 レポートのフィードバック(修正後の再フィードバック 合格するまで繰り返し)						
第18回 レポートのフィードバック(修正後の再フィードバック 合格するまで繰り返し)						
第19回 レポートのフィードバック(修正後の再フィードバック 合格するまで繰り返し)						
第20回 レポートのフィードバック(修正後の再フィードバック 合格するまで繰り返し)						
第21回 レポートのフィードバック(修正後の再フィードバック 合格するまで繰り返し)						
第22回 レポートのフィードバック(修正後の再フィードバック 合格するまで繰り返し)						
第23回 まとめ レポート最終提出						
評価方法						
評価時の態度や技術および提出物で評価する。 ご協力者様への失礼な言動やリスク管理の不足などは減点する。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
これまで学習してきた知識、技術をしっかり復習すること。またグループ内の学生間でのディスカッションをすること。その際個人情報の取り扱いには十分注意すること。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						

教科書	書名	国家試験対策コンテンツ
	著者名	
	出版社	全国リハビリテーション教育協会
参考図書	書名	
	著者名	
	出版社	
留意事項		

授業科目	作業療法実習Ⅳ			担当者	打田 明 他 (オムニバス)	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	客観的臨床能力試験: Objective Structured Clinical Examination(以下OSCE)を行う。協力者に来校いただき実践的に模擬患者の評価を行う。また振り返りの学習をすることによって自身の問題点を明確にして修正していく。					
到達目標	臨床実習で求められる態度、知識、技術を習得する。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 OSCE事前準備・実技練習						
第3回 OSCE事前準備・実技練習						
第4回 OSCE事前準備・実技練習						
第5回 OSCE実施						
第6回 OSCE実施						
第7回 OSCE実施						
第8回 OSCE実施						
第9回 OSCE実施						
第10回 OSCE実施						
第11回 OSCE実施						
第12回 OSCE実施						
第13回 担当教員からのフィードバック						
第14回 担当教員からのフィードバック						
第15回 担当教員からのフィードバック						
第16回 担当教員からのフィードバック						
第17回 担当教員からのフィードバック						
第18回 担当教員からのフィードバック						
第19回 担当教員からのフィードバック						
第20回 担当教員からのフィードバック						
第21回 担当教員からのフィードバック						
第22回 担当教員からのフィードバック						
第23回 担当教員からのフィードバック						
評価方法						
OSCEの場面での態度、知識、技術进行评估する。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
これまでに学んだことをしっかり復習して臨むこと。OSCEの実技にあたっていない時間もしっかりと準備に取り組むこと。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						

教科書	
書名	
著者名	
出版社	
参考図書	
書名	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編
著者名	斉藤 栄一 監修
出版社	金原出版株式会社
留意事項	

授業科目	作業療法実習対策ゼミ I			担当者	島田 康雄 他	(オムニバス)
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	作業療法実習において必要な知識・技術を身に付ける。評価法について学び評価に関わる検査・運動分析・作業分析の方法を学ぶ。					
到達目標	評価について理解する。検査・運動分析・作業分析を理解する。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 評価の考え方について①						
第3回 評価の考え方について②						
第4回 検査演習 (ROM)						
第5回 検査演習 (ROM)						
第6回 検査演習 (MMT)						
第7回 検査演習 (MMT)						
第8回 検査演習 (高次脳機能障害)						
第9回 検査演習 (高次脳機能障害)						
第10回 生活行為向上マネジメント						
第11回 生活行為向上マネジメント						
第12回 生活行為向上マネジメント						
第13回 実習対策ロールプレイング						
第14回 実習対策ロールプレイング						
第15回 実習対策ロールプレイング						
第16回 実習対策ロールプレイング						
第17回 実習対策ロールプレイング						
第18回 実習対策ロールプレイング						
第19回 動作分析						
第20回 動作分析						
第21回 動作分析						
第22回 動作分析						
第23回 まとめ						
評価方法						
各工程ごとにレポートを提出し、それぞれ15点、実技試験を行い25点で判定する(100点満点)。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
自宅学習としてレポートを作成する。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						

教科書	書名	国家試験対策コンテンツ
	著者名	
	出版社	全国リハビリテーション教育協会
参考図書	書名	
	著者名	
	出版社	
留意事項		
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。		

授業科目	作業療法実習対策ゼミⅡ			担当者	島田 康雄 他	(オムニバス)
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	作業療法実習において必要な知識・技術を身に付ける。治療法について学ぶ。技術だけでなく対象者とのかかわり方、実習地での立ち振る舞いも合わせて学ぶ。					
到達目標	作業療法における評価・治療を理解する。対象者との関わり方を理解する。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 実習対策実技練習(各領域共通)						
第3回 実習対策実技練習(各領域共通)						
第4回 実習対策実技練習(各領域共通)						
第5回 実習対策実技練習(各領域共通)						
第6回 実習対策実技練習(各領域共通)						
第7回 実習対策実技練習(各領域共通)						
第8回 実習対策実技練習(身体障害領域)						
第9回 実習対策実技練習(身体障害領域)						
第10回 実習対策実技練習(身体障害領域)						
第11回 実習対策実技練習(身体障害領域)						
第12回 実習対策実技練習(身体障害領域)						
第13回 実習対策実技練習(身体障害領域)						
第14回 実習対策実技練習(身体障害領域)						
第15回 実習対策実技練習(身体障害領域)						
第16回 実習対策実技練習(精神障害領域)						
第17回 実習対策実技練習(精神障害領域)						
第18回 実習対策実技練習(精神障害領域)						
第19回 実習対策実技練習(精神障害領域)						
第20回 実習対策実技練習(精神障害領域)						
第21回 実習対策実技練習(精神障害領域)						
第22回 実習対策実技練習(精神障害領域)						
第23回 まとめ						
評価方法						
提出物や実技技能で評価する。体調不良等の理由のない遅刻・欠席は減点する。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
これまでの各科目の復習をすること。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						

教科書	書名	国家試験対策コンテンツ
	著者名	
	出版社	全国リハビリテーション教育協会
参考図書	書名	
	著者名	
	出版社	
留意事項		
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。		

授業科目	作業療法評価学運動系			担当者	打田 明・小栢 拓也 他	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	3単位	(オムニバス)
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	作業療法評価場面で用いる各種検査・測定にはどのようなものがあるかを知り、その方法を理解する。					
到達目標	①作業療法場面で用いる検査・測定を知る。 ②作業療法評価で用いる検査測定を正しい方法で行う。 ③作業療法評価で用いる検査測定を正確に実施する。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 関節可動域測定						
第3回 筋力検査 上肢						
第4回 筋力検査 下肢 手指						
第5回 形態計測						
第6回 深部腱反射 病的反射						
第7回 表在感覚検査(痛覚・触覚・二点識別覚)						
第8回 深部感覚検査(運動覚・位置覚)						
第9回 脳神経検査						
第10回 協調性検査・バランス検査						
第11回 脳血管障害身体機能検査① BRS						
第12回 脳血管障害身体機能検査② SIAS						
第13回 脳血管障害身体機能検査③ FMA						
第14回 上肢機能検査 STEF						
第15回 脊髄損傷の評価						
第16回 評価の実践:時間選択制 ROM・MMT・形態計測						
第17回 評価の実践:時間選択制 深部腱反射・病的反射(筋緊張検査)						
第18回 評価の実践:時間選択制 表在感覚・深部感覚検査						
第19回 評価の実践:時間選択制 表在感覚・深部感覚検査						
第20回 評価の実践:時間選択制 脳神経系検査						
第21回 評価の実践:時間選択制 協調性検査						
第22回 評価の実践:時間選択制 脳血管系検査						
第23回 評価の実践:時間選択制 STEF						
評価方法						
筆記試験80% 実技試験20% 遅刻や欠席は減点します。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
授業毎の予習復習をしっかりとすること。特に実技の授業が多いため、実技練習はたくさんすること。 実技の授業の際は、動きやすい格好(ジャージなど)。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。 授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス			akira.uchita@ocr.ac.jp			

教科書	
書名	標準作業療法学―専門分野 作業療法評価学
著者名	編集:岩崎 テル子 他
出版社	医学書院
書名	診察ができる vol.1 身体診察
著者名	編集:医療情報科学研究所
出版社	MEDIC MEDIA
書名	脳卒中の機能評価 SIASとFIM 基礎編
著者名	編集:千野直一ら
出版社	金原出版株式会社
参考図書	
書名	
著者名	
出版社	
留意事項	
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。	

授業科目	作業療法評価学認知系			担当者	島田 康雄 他	(オムニバス)
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	3単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	作業療法評価の中でも特に認知系の病態や評価について学び、対象者への援助を行うための基礎を学ぶ。その一環として脳の解剖や画像のみかたについての学習も行う。					
到達目標	様々な認知機能の障害を理解する。各種検査方法の概要を理解する。国家試験に出題が予想される脳画像のみかたを習得する。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション						
第2回 脳画像のみかた①						
第3回 脳画像のみかた②						
第4回 注意障害の概要と評価						
第5回 記憶障害の概要と評価						
第6回 失認の概要と評価						
第7回 半側空間無視の概要と評価①						
第8回 半側空間無視の概要と評価②						
第9回 ここまでの振り返り						
第10回 失語の概要と評価①						
第11回 失語の概要と評価②						
第12回 失語の概要と評価③						
第13回 失行の概要と評価①						
第14回 失行の概要と評価②						
第15回 遂行機能障害・社会的行動障害の概要と評価①						
第16回 症例紹介						
第17回 まとめ						
第18回 認知機能検査演習①						
第19回 認知機能検査演習②						
第20回 認知機能検査演習③						
第21回 認知機能検査演習④						
第22回 認知機能検査演習⑤						
第23回 認知機能検査演習⑥						
評価方法						
定期試験80％ 小テスト20％ 連絡のない欠席、遅刻は減点します。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
学習量が非常に多いと思われます。復習は必ずしてください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						

教科書	
書名	標準作業療法学高次脳機能作業療法学
著者名	能登真一
出版社	医学書院
書名	症状・経過観察に役立つ脳卒中の画像のみかた
著者名	市川博雄
出版社	医学書院
参考図書	
書名	
著者名	
出版社	
留意事項	
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。	

授業科目	作業療法評価学 発達障害系 I			担当者	中村 愛子	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	発達障害領域の子どもに対して使用される作業療法評価及び発達検査について学び、演習を通して実施方法を習得する					
到達目標	①発達障害領域で使用する作業療法評価及び発達検査について理解する ②発達障害領域で使用する作業療法評価及び発達検査をマニュアル等を参考にしながら適切に実施できるようになる ③実施した評価を分析・解釈できるようになる					
授業計画						
第1回 オリエンテーション/子どもの評価の基本的な考え方/情報収集に関して						
第2回 正常発達/遠城寺式乳幼児分析的発達検査						
第3回 KIDS乳幼児発達スケール/デンバー式発達スクリーニング検査						
第4回 運動機能評価(小児の反射・反応/GMFCS/MTS・MAS)						
第5回 手の機能/巧緻動作評価(つまみ・把握の発達)/遊びの発達						
第6回 作業遂行・身辺処理の評価/Wee FIM/PEDI						
第7回 行動の評価/S-M社会生活能力検査						
第8回 視る機能について/眼球運動検査/フロスティック視知覚発達検査						
評価方法						
筆記試験 100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
講義前に、教科書の該当部分について予習をしておくようにしてください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。 授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス			kyomu@ocr.ac.jp			
教科書						
書名		標準作業療法専門分野 作業療法評価学 第3版				
著者名		能登真一 他編集				
出版社		医学書院				
参考図書						
書名		発達障害の作業療法 基礎編・応用編				
著者名		岩崎清隆・岸本光夫・鴨下賢一				
出版社		三輪書店				
書名		小児リハ評価ガイド				
著者名		楠本泰士・友利幸之介				
出版社		MEDICAL VIEW				
留意事項						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	作業療法評価学 発達障害系Ⅱ			担当者	中村 愛子	
学科名	作業療法学科	学年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内容	発達障害領域の子どもに対して使用される作業療法評価及び発達検査について学び、演習を通して実施方法を習得する					
到達目標	①発達障害領域で使用する作業療法評価及び発達検査・知能検査について理解する ②発達障害領域で使用する作業療法評価及び発達検査・知能検査をマニュアル等を参考にしながら適切に実施できるようになる ③実施した評価を分析・解釈できるようになる					
授業計画						
第1回 オリエンテーション/WISC-IVについて						
第2回 WISC-IVについて/WPPSI/日本版K-ABC II						
第3回 知能・認知機能について/知能・認知機能の評価						
第4回 感覚・感覚統合障害について/感覚統合機能の評価						
第5回 ADL(食事)の発達・評価						
第6回 ADL(更衣)の発達・評価						
第7回 ADL(排泄)の発達・評価/書字の分析・評価						
第8回 書字の分析・評価/板書の分析・評価						
評価方法						
筆記試験 100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
講義前に、教科書の該当部分について予習をしておくようにしてください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス kyomu@ocr.ac.jp						
教科書						
書名		標準作業療法専門分野 作業療法評価学 第3版				
著者名		能登真一 他編集				
出版社		医学書院				
参考図書						
書名		発達障害の作業療法 基礎編・応用編				
著者名		岩崎清隆・岸本光夫・鴨下賢一				
出版社		三輪書店				
書名		小児リハ評価ガイド				
著者名		楠本泰士・友利幸之介				
出版社		MEDICAL VIEW				
留意事項						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	小児科学			担当者	田中 裕二	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	小児の発育と発達，および小児期によく認められる病気や障害について学び，「作業療法治療学発達障害系」の講義で学習する内容の基礎知識としての取得を目指す。					
到達目標	①胎児期～小児期のヒトの発育や発達について理解する ②小児期特有の病気や障害について理解する					
授業計画						
第1回 オリエンテーション、小児科学について(遠隔授業:オンデマンド)						
第2回 先天性異常(遠隔授業:オンデマンド)						
第3回 消化器疾患(遠隔授業:オンデマンド)						
第4回 腫瘍(遠隔授業:オンデマンド)						
第5回 循環器疾患(遠隔授業:オンデマンド)						
第6回 代謝・内分泌疾患(遠隔授業:オンデマンド)						
第7回 腎・泌尿器・生殖器疾患(遠隔授業:オンデマンド)						
第8回 免疫・アレルギー疾患(遠隔授業:オンデマンド)						
第9回 膠原病(遠隔授業:オンデマンド)						
第10回 血液・造血器疾患(遠隔授業:オンデマンド)						
第11回 感染症(遠隔授業:オンデマンド)						
第12回 神経疾患(遠隔授業:オンデマンド)						
第13回 精神疾患(遠隔授業:オンデマンド)						
第14回 骨・関節疾患(遠隔授業:オンデマンド)						
第15回 総括(遠隔授業:オンデマンド)						
評価方法						
筆記試験 100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
講義前に、教科書の該当部分について予習しておくようにして下さい。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス				kyomu@ocr.ac.jp		
教科書						
書名		病気がみえる vol15 小児科				
著者名		編集:医療情報科学研究所				
出版社		メディックメディア				
参考図書						
書名		適宜紹介します				
著者名						
出版社						
留意事項						
本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業) 実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	神経内科学			担当者	松長 宏泰	□実務教員
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	脳神経内科疾患の理解					
到 達 目 標	脳神経内科疾患を理解し、作業療法へ活用できること					
実務教員 による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 松長宏泰(作業療法士)医療法人 讃和会 友愛会病院 勤務(中枢神経系疾患に従事)					
授業計画						
第1回 大脳葉、脳溝、脳回について						
第2回 脳野 ブロードマンの役割						
第3回 大脳辺縁系						
第4回 大脳基底核 運動の調節(基底核)						
第5回 間脳(視床 視床下部 間脳)						
第6回 脳幹						
第7回 小脳 運動の調節(小脳)						
第8回 脳動脈系 脳静脈系						
第9回 脳卒中(脳梗塞 脳出血 動脈瘤)						
第10回 脳脊髄液 内圧 浮腫 ヘルニア 水頭症(認知症)						
第11回 脳膜 脳炎 腫瘍 硬膜血腫 クモ膜下出血 てんかん						
第12回 脊髄伝導路 構造 感覚経路 運動経路 脊髄空洞症 ブラウンセガール						
第13回 神経変性疾患(核上神経麻痺、ALS、脊髄小脳変性症) 脱髄性疾患(多発性硬化症)						
第14回 神経変性疾患(Parkinson病、Huntington病、 認知症)						
第15回 ニューロパチー(末梢神経損傷) 神経筋接合部疾患 ミオパチー(筋疾患)						
評価方法						
筆記試験100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
中枢神経系・末梢神経系の解剖学は授業前に確認お願いします。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。 授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス				kyomu@ocr.ac.jp		
教科書						
書名		病気がみえる Vol.7 脳・神経 第2版				
著者名		医療情報科学研究所				
出版社		メディクメディア				
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。

また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	整形外科学			担当者	西出 義明	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内 容	運動器リハビリテーションの主たる整形外科的疾患における作業療法の知識と技術を得る。臨床ですぐに役立つ技術を学ぶ。					
到達目標	整形外科学の基礎から実践までの知識を獲得する。すぐに実践できる臨床場面で必要な診断基準や評価法・治療法を獲得する。					
授業計画						
第1回	整形外科基礎知識(骨、軟骨、靱帯、筋など)について学ぶ 関節可動域制限の原因と機序を学ぶ。					
第2回	整形外科基礎知識(骨、軟骨、靱帯、筋など)について学ぶ 関節可動域制限の原因と機序を学ぶ。					
第3回	整形外科基礎知識(骨、軟骨、靱帯、筋など)について学ぶ 関節可動域制限の原因と機序を学ぶ。					
第4回	炎症性疾患における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。					
第5回	炎症性疾患における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。					
第6回	炎症性疾患における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。					
第7回	上肢骨折における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。					
第8回	上肢骨折における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。					
第9回	手関節骨折における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。					
第10回	手関節骨折における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。					
第11回	手指関節骨折における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。					
第12回	手指関節骨折における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。					
第13回	手指関節骨折における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。					
第14回	肘関節骨折における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。					
第15回	上肢関節の動かし方(実技)					
第16回	上肢関節の動かし方(実技)					
第17回	末梢神経損傷における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。					
第18回	末梢神経損傷における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。					
第19回	手指腱損傷における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。					

第20回	手指腱損傷における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。
第21回	上肢の装具療法(スプリント)の原理と作業療法士としての使命について学ぶ。
第22回	上肢の装具療法(スプリント)の原理と作業療法士としての使命について学ぶ。
第23回	上肢の装具療法(スプリント)の原理と作業療法士としての使命について学ぶ。
第24回	上肢の装具療法(スプリント)の原理と作業療法士としての使命について学ぶ。
第25回	上肢切断における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。
第26回	上肢切断における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。
第27回	上肢切断における作業療法の知識と技術を得る。臨床場面で必要な評価・治療法などの知識を獲得する。
第28回	運動器疾患に対するセラピストの責任と期待
第29回	総括
第30回	国家試験対策
評価方法	
筆記試験 100%(前期試験・後期試験) 各学期の成績を平均して評価を行う。	
授業時間外の学習(予習・復習等)について	
1年生で習ったMMT,ROM test、解剖学を理解しておいてください。	
授業時間外の質問について	
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。	
メールアドレス	kyomu@ocr.ac.jp
教科書	
書名	標準整形外科学 第15版
著者名	中村利孝ほか
出版社	医学書院
参考図書	
書名	リハ実践テクニック ハンドセラピー第2版
著者名	斉藤慶一郎
出版社	メディカルビュー社
留意事項	
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。	

授業科目	精神医学			担当者	西田 斉二	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	精神医学の基礎的知識を習得し、精神障害を持って生活している方々の医学的、心理的、社会的理解を目指す。					
到達目標	精神疾患、医学的変遷や現状，基本概念，疾患別の特性や支援の実際についての知識を深める。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション 精神障害について						
第2回 感情障害1						
第3回 感情障害2						
第4回 統合失調症1						
第5回 統合失調症2						
第6回 神経症性障害1						
第7回 神経症性障害2						
第8回 摂食障害						
第9回 パーソナリティ障害						
第10回 アルコール関連疾患						
第11回 薬物等 物質依存						
第12回 認知症1						
第13回 認知症2						
第14回 その他の精神疾患						
第15回 まとめ						
評価方法						
小テスト30％ 定期テスト70％						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
主要な疾患のカテゴリーごとに一度小テストを行います(計3回予定)。小テストは前回までの内容および当日の授業の内容が範囲となり、当日の最後に行います。定期的に小テストを行うため、その都度、予習復習をしておいてください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス			kyomu@ocr.ac.jp			
教科書						
書名	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学					
著者名	奈良勲 鎌倉矩子 監修					
出版社	医学書院					
参考図書						
書名	適宜配布します。					
著者名						
出版社						
留意事項						
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	地域作業療法学			担当者	北田 泰敏 他 (オムニバス)	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	この授業では対象者を患者や障がいのある人と限定して捉えるのではなく、地域で生活する人と捉えて、地域資源や環境との影響を考えながら”暮らし”をみることの練習をします。障がいの有無に関係なく、より良い地域資源とは何かを皆で考えながら、地域作業療法とは何かを学びましょう。					
到達目標	1:地域作業療法の枠組みを理解する。 2:地域作業療法学を通して他職種連携の中での作業療法士の役割を理解する。 3:演習や事例を通して地域資源の重要性や、作業療法を通した支援方法をイメージ出来る。					
授業計画						
第1回 地球の問題と地域の課題について						
第2回 SDHについて						
第3回 地域作業療法の枠組みを理解する「地域包括ケアシステムなどの法制度を通して」						
第4回 地域作業療法の枠組みを理解する「家族支援の事例を通して」						
第5回 認知症と作業療法①						
第6回 認知症と作業療法②						
第7回 地域ケア会議と認知症初期集中支援チームについて						
第8回 難病疾患の方に対する訪問作業療法について						
第9回 災害と作業療法						
第10回 終末期での作業療法(座る事、寝る事)						
第11回 介護予防と作業療法						
第12回 若年性認知症と作業療法						
第13回 海外の認知症事情						
第14回 コミュニティーソーシャルワークについて						
第15回 まとめ						
評価方法						
定期試験 100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
演習を多く取り入れて授業を進めます。課題に対しては授業外の時間を使って準備をしてください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
書名		最新作業療法学講座 地域作業療法学				
著者名		小林法一 小林隆司				
出版社		医歯薬出版株式会社				
参考図書						
書名		認知症の作業療法 第2版				
著者名		小川 敬之				
出版社		医歯薬出版株式会社				

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。

また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	地域作業療法実習			担当者	専任教員	(オムニバス)
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	1週間の実習を行う。地域包括ケアシステムを実践している施設(通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション事業所、精神科デイケア)に行き、地域包括システムの仕組みを学ぶ。また、実習地における地域包括システムでの位置づけを学ぶ。					
到達目標	1、地域包括ケアシステムを理解する。 2、地域包括ケアシステムにおける実習施設の位置づけを理解する。 3、施設における作業療法士の役割を理解する。					
授業計画						
1日目:実習オリエンテーション						
2日目:地域包括ケアシステム場面を見学する						
3日目:地域包括ケアシステムについて施設の役割を見学する						
4日目:他施設とのかかわりを学ぶ						
5日目:実習まとめ						
学内において 実習報告会						
評価方法						
学外評価と学内評価の合計得点で判定する。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
実習指導者に指示を仰ぎ、予習・復習を実施すること。						
授業時間外の質問について						
質問は担当教員に連絡してください。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
実習は1日当たり8時間として、自宅学習を1時間行う。						

授業科目	内科学			担当者	長谷川 昌士	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内 容	内部障害におけるリハビリテーションの需要は高まってきている。内科学の概略を学ぶとともに、医療現場における必要な知識を習得する。					
到 達 目 標	内科疾患について基礎的な知識を習得する。また、生理学的なメカニズムに基づいて、その病態を理解することを目標とする。					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 回復期病院、急性期病院を経て、現在は地域リハビリテーションに従事している。					
授業計画						
第1回 内科学の概念(遠隔授業:オンデマンド)						
第2回 内科的診断と治療の実際(遠隔授業:オンデマンド)						
第3回 症候学①(遠隔授業:オンデマンド)						
第4回 症候学②(遠隔授業:オンデマンド)						
第5回 循環器疾患① 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第6回 循環器疾患② 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第7回 循環器疾患③ 内部障害のリハビリテーション(遠隔授業:オンデマンド)						
第8回 呼吸器疾患① 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第9回 呼吸器疾患② 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第10回 呼吸器疾患③ 内部障害のリハビリテーション(遠隔授業:オンデマンド)						
第11回 消化管疾患① 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第12回 消化管疾患② 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第13回 消化管疾患③ 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第14回 肝胆膵疾患① 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第15回 肝胆膵疾患② 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第16回 血液造血器疾患① 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第17回 血液造血器疾患② 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第18回 血液造血器疾患③ 内部障害のリハビリテーション(遠隔授業:オンデマンド)						
第19回 代謝性疾患① 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第20回 代謝性疾患② 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第21回 代謝性疾患③ 内部障害のリハビリテーション(遠隔授業:オンデマンド)						
第22回 腎泌尿器疾患① 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第23回 腎泌尿器疾患② 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第24回 腎泌尿器疾患③ 内部障害のリハビリテーション(遠隔授業:オンデマンド)						
第25回 アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症① 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第26回 アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症② 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第27回 アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症③ 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第28回 感染症① 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第29回 感染症② 病態生理および疾患論(遠隔授業:オンデマンド)						
第30回 感染症③ 標準予防策の実際(遠隔授業:オンデマンド)						

評価方法	
筆記試験（前期試験・後期試験） 100％	
授業時間外の学習（予習・復習等）について	
授業内容は必ず教科書、参考書で見直し、学習したことを授業ノートに追記しておくこと。	
授業時間外の質問について	
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。	
メールアドレス	hotsmile.hasegawa@gmail.com
教科書	
書名	病気が見えるシリーズ vol.3 糖尿病・代謝・内分泌
著者名	
出版社	メディックメディア
教科書	
書名	病気が見えるシリーズ vol.1 消化器
著者名	
出版社	メディックメディア
留意事項	
無断欠席や遅刻に注意してください。	
本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。（遠隔授業又はハイブリット型授業）実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。	

授業科目	日常生活活動学			担当者	松長 宏泰	□実務教員
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	国際生活機能分類に(ICF)概念、運動学のもとづいた日常生活活動の分析・評価・支援の学習					
到達目標	日常生活活動の概念を理解し、運動学的分析が行え、作業療法へ応用できること					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。 【講師略歴】 松長宏泰(作業療法士:科長) 医療法人 讃和会 友愛会病院 勤務(急性期・回復期従事)					
授業計画						
第1回 オリエンテーション・国際生活機能分類(ICF)・日常生活活動の概念・定義・意義						
第2回 評価方法:Baftel Index、機能的自立度評価法(FIM)、日常生活自立度						
第3回 日常生活活動と運動学:基本動作						
第4回 日常生活活動と運動学:Self Care 食事						
第5回 日常生活活動と運動学:Self Care 整容						
第6回 日常生活活動と運動学:Self Care 排泄						
第7回 日常生活活動と運動学:Self Care 更衣						
第8回 日常生活活動と運動学:Self Care 入浴						
第9回 日常生活活動と運動学:Self Care 生活関連動作						
第10回 障がい特性と日常生活活動:中枢性運動障害(片麻痺)						
第11回 障がい特性と日常生活活動:中枢性運動障害(脊髄損傷)						
第12回 障がい特性と日常生活活動:運動器障害(大腿骨頸部骨折、リュウマチ等)						
第13回 障がい特性と日常生活活動:高次脳機能障害・認知症						
第14回 日常生活活動支援機器・制度						
第15回 まとめ						
第16回 試験 立ち合い						
評価方法						
筆記試験100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
解剖学・運動学の知識は必要です。 ICF(国際生活機能)の視点も重要です。 日頃から、自らの日常生活活動を意識しましょう。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。 授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス				kyomu@ocr.ac.jp		

教科書	
書名	日常生活活動・社会生活行為学 (標準作業療法学 専門分野)
著者名	矢谷令子
出版社	医学書院
参考図書	
書名	
著者名	
出版社	
留意事項	
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。	

授業科目	脳神経外科学			担当者	平野 博久	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	脳神経外科学領域の学習					
到 達 目 標	脳神経外科疾患に関する理解を深める。					
授業計画						
第1回 画像からみた局所神経解剖						
第2回 神経症候学①(運動麻痺・運動失調・不随意運動・感覚障害)						
第3回 神経症候学②(脳神経系・自律神経系)						
第4回 神経症候学③(高次脳機能障害)						
第5回 脳卒中①(脳梗塞・脳出血)						
第6回 脳卒中②(くも膜下出血など)、頭部外傷						
第7回 認知症(AD・VaD・NPH・FTLD・DLB・MCI)						
第8回 変性疾患(PD・SCD・CBD・PSP・HD・ALS)						
第9回 免疫性神経疾患①(MS・GBS・CIDP)						
第10回 免疫性神経疾患②(MG・PM/DM)、筋ジストロフィー						
第11回 てんかん、脳腫瘍、神経感染症						
第12回 急性期の作業療法						
第13回 回復期の作業療法						
第14回 練習問題まとめ①						
第15回 練習問題まとめ②						
評価方法						
筆記試験100%						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
スライドプリントの復習						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。 授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス				kyomu@ocr.ac.jp		
教科書						
書名				不要		
著者名						
出版社						

参考図書	
書名	脳神経外科学
著者名	太田富雄他
出版社	金芳堂
書名	病気がみえるvol.7 脳・神経
著者名	医療情報科学研究所
出版社	メディックメディア
書名	症状・経過観察に役立つ脳卒中の画像のみかた
著者名	市川博雄
出版社	医学書院
留意事項	
本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システム Moodle などを通じて通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。	

授業科目	薬理学			担当者	名徳 倫明	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	薬物の基本的事項(作用機序、投与方法、体内動態)を学ぶ。また、薬物療法や副作用等について学ぶ。					
到達目標	薬物が体内に入り、どのように作用を示すかを理解する。また、薬を使用する場合の注意点を理解する。					
授業計画						
第1回 薬理学の基礎知識(1)						
第2回 薬理学の基礎知識(2) (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第3回 末梢神経系作用薬 (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第4回 中枢神経系作用薬 (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第5回 循環器系疾患治療薬 (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第6回 呼吸器・代謝系疾患治療薬 (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第7回 消化器系疾患治療薬 (遠隔授業:オンデマンド配信)						
第8回 抗感染症薬、抗悪性腫瘍薬、その他の治療薬 (遠隔授業:オンデマンド配信)						
評価方法						
受講態度、試験結果を総合的に評価する。(受講態度:20%、筆記試験:80%)						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
各2時間程度の予習・復習に取り組んでください。予習は、予め配布する資料等をしっかりと読んでください。また復習は、学習した箇所ならびに配布のプリント等の内容について再確認してください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。						
メールアドレス				kyomu@ocr.ac.jp		
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業) 実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	臨床ゼミナールⅢ			担当者	北田 泰敏 他	(オムニバス)
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	集団作業療法の実施の仕方について学ぶ。 集団作業療法の企画・計画・実践を体験する。					
到達目標	①集団作業療法の理論を理解することが出来る。 ②集団作業療法の計画を目的や効果を明確にして立てることが出来る。 ③集団作業療法を模擬的に実施することが出来る。					
授業計画						
第1回 オリエンテーション(授業の進め方とグループ分け)、障害者スポーツ概論						
第2回 集団作業療法の理論と応用						
第3回 集団作業療法の理論と応用(実践・体験)						
第4回 役割的活動を目的とした集団作業療法の説明						
第5回 集団作業療法の効果について						
第6回 精神科領域での集団作業療法理論						
第7回 発達領域での集団作業療法理論						
第8回 集団作業療法の計画と準備						
第9回 集団作業療法の計画と準備(初回計画書)						
第10回 集団作業療法の計画と準備						
第11回 集団作業療法の計画と準備(提出)						
第12回 集団作業療法の実施とディスカッション① 2グループ						
第13回 集団作業療法の実施とディスカッション② 2グループ						
第14回 集団作業療法の実施とディスカッション③ 2グループ						
第15回 まとめ レポート(最終計画書)の提出						
評価方法						
レポートと集団作業療法の実施50% 提出課題50%。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
この授業は演習を多く取り入れて進めます。 集団作業療法の実践を行うにあたり、授業時間内でも計画や準備の時間は確保しますが、時間内にまとまらなかった場合などは、各グループで授業時間外の時間を取って、決められた日までに計画書を完成させてください。						
授業時間外の質問について						
授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、緊急時など必要に応じて遠隔授業(リアルタイム配信型またはオンデマンド型)に変更することがある。実施方法の変更については、講義支援システムMoodleなどを通じて通知する。

また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更については各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	老年医学			担当者	小栢 拓也	
学 科 名	作業療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	老年期にみられる障害の特性を理解するために老化のメカニズムや生理学的特性、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化、高齢者を取りまく地域の問題など幅広く学習する。また、老化に伴い特徴的に現れる疾患・障害とその病態についても学習する。					
到達目標	1. 老化に伴う生理機能変化、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化を理解する 2. 老化に伴い特徴的に現れる疾患・障害とその病態について説明できる					
授業計画 第1回 老年医学総論 老化と老年病の考え方(遠隔授業:オンデマンド) 第2回 老年医学総論 加齢に伴う生理的变化(遠隔授業:オンデマンド) 第3回 高齢者における評価(遠隔授業:オンデマンド) 第4回 認知症(遠隔授業:オンデマンド) 第5回 高齢者の作業療法(遠隔授業:オンデマンド) 第6回 老年期に多い疾患(老年症候群)(遠隔授業:オンデマンド) 第7回 授業まとめ(遠隔授業:オンデマンド) 第8回 まとめ(遠隔授業:オンデマンド)						
評価方法 定期試験(100%)						
授業時間外の学習(予習・復習等)について 特になし						
授業時間外の質問について 授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。						
教科書 書名 著者名 出版社						
参考図書 書名 著者名 出版社						
留意事項 教科書はありません。必要に応じて資料を配布します。 本授業は、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営を行う。(遠隔授業又はハイブリット型授業)実施方法や授業計画詳細については、各科目担当者より、別途通知する。 また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、評価方法を変更することがある。評価方法の変更が生じた場合は、各科目担当者より、別途通知する。						